

「東日本大震災」 Report

全国から校友をはじめ
ボランティアなどの支援を受け、
大震災の打撃から立ち直りを
目指しています。



石巻専修大学のテント村

キャンパス内のグラウンドは、全国から集
まったボランティアの活動拠点となるテン
ト用地として提供されました。週刊誌
『AERA』2011年5月23日号でも紹介。



愛知県から ワゴン車を運転し、 被災地へ

愛知県支部長の西島篤師さん(昭49・
経済)は、集めた支援金と支援物資を
積み込んだ4tトラックやワゴン車で
愛知県を4月11日に出発し、一昼夜か
けて石巻専修大学に到着。その後、大
船渡市にも立ち寄り、甘竹校友会長と
の再会を喜び合いました。

生田キャンパスのシンボル・ 3号館

大学史資料課



生田校舎3号館の外観。屋
根が反ったデザインとなっ
ている。

3号館の最上階にあ
る351教室。2階部
分にも座席がある。



昭和39年、専修大学の学生数は念願の1
万人を突破。その後も右肩上がりに学生数
は増え続け、今や学生数約2万人を誇る総
合大学へと成長しました。この画期的な年
に竣工したのが3号館です。

多くの大学が急激な発展を遂げた高度成
長期の大学教育の特色の一つに「マスプロ
教育」があります。マスプロ教育とは大人
数の学生に教員が大教室で講義を行う教育
方法のことですが、急成長を遂げた専修大
学には当時、マスプロ教育をできるような
教室はありませんでした。

この問題を解消すべく建設されたのが3
号館でした。最上階に設けられた収容人員
約650人を誇る大教室はその象徴とも言え
るでしょう。

さらに、3号館の誕生は専修大学のメイ
ンキャンパスを神田から生田へと変えるこ
ととなりました。大人数の学生を収容でき
る3号館の完成にともない、大学は生田キ
ャンパスを大学の中心にするという方針を
打ち出します。これにより授業、大学祭な
どの行事やサークル活動の多くは学生の集
まる生田で行われるようになったのです。

このように専修大学の発展を支えた3号
館ですが、東日本大震災の被害により取り
壊すことになりました。しかしその雄姿は
多くの専大生の心の中に残っていくことで
しょう。



被災した3号館の内部。



学生サークル 「S.I.A(シア)」 などが募金活動

3月21日に登戸駅にて、専修大
学国際協力サークル「SIA」
(P25参照)は国際経済学科の
「飯沼健子ゼミ」、専修大学国際
交流会「SHIP」と合同で募金
活動を行いました。引き続き4
月8日に登戸、4月12日に新百
合ヶ丘でも行いました。



神田校舎、生田校舎 ともに、さまざまな 耐震対策済み

本学は「東日本大震災」以前より、さま
ざまな耐震対策を講じています。神田校舎2・
3号館では2009年と2010年に耐震ブ
レース、壁補強、天井部補強等の補強工事を
行っており、今回の大震災の影響は、ほと
んどありませんでした。生田校舎総合体育館・
食堂館・4号館でも2010年の夏休みま
で、スリット工法などによる耐震補強を
実施しました。本学は今後も、地震や災害
対策のレベルアップを目指しています。

石巻専修大学及び 東日本大震災で被災された 皆様へ



専修大学北海道短期大学長
寺本千名夫

幸いにして北海道短期大学は、施設の被害
はなく、ご父兄の被災も6家族(3月11日)
ということでした。直接犠牲者となられた石
巻専修大学学生の皆様、ご父兄の皆様には心
から哀悼の意を表します。また、被災された
専修大学、石巻専修大学学生のご父兄の皆様、
校友の皆様には、心からお見舞い申し上げます。

皆様方におかれましては、大変厳しく辛い
毎日のことと思います。言葉もございません。
どうか国内外からの励ましに耳を傾けられ、
お気持ちを強く持って頂ければと思います。

石巻専修大学入学式では、情報工学で地域貢
献をしたい、多くの方からの支援に励まされ
たという力強い新入生の宣誓がありました。また、
キャンパス内には、ボランティアのテ
ントが立ち並び、同大学が地域再生の拠点で
あることを示しています。このように新しい
息吹も見え始めております。皆様方の心の明
かりが再び点灯されることを祈っております。

私達応援団は、皆様方の心の傷の癒し、生
活再建には大変な時間が必要だと思いたすの
で、補償問題等政治への監視も含めて、息の
長い応援をさせて頂きたいと考えております。

「電気をつくろう!」自転車型 人力発電機システムを開発

ネットワーク情報学部 綿貫理明教授が、(財)川崎市産業
振興財団のコーディネートにより太陽電音(株)、(有)伊藤工
業との産官学連携で開発しました。環境問題解決の一助
となることを目指すのはじめ、今回の大震災を契機に、
災害時の電力供給などの可能性も期待されています。



手書きの『石巻日日新聞』

輪転機が水没したため、3月12日から1週間、手
書きで発行。(撮影協力:株式会社石巻日日新聞社 日本新聞
博物館)

